

## 黄桜（黄桜酒造株式会社）とカップカントリー

伏見の酒処の比較的若い企業である黄桜は、1925年に松本治六郎（生没年非公開）が一族の蔵元から独立し設立された。今日の伏見のほとんどの蔵元とは異なり、黄桜はビールも醸造している。

1995年、同社は製品を紹介し、会社の歴史を説明するために、古い蔵元の建物内に黄桜カップカントリーを設立した。伝統的なわらで包まれた樽が入り口に積み重ねられている。樽には会社の徽章である黄桜が付いている — 文字通り「黄色い桜」である。庭のパティオにはテーブルがあり、春に咲く黄色い桜が見所になっている。

古い酒蔵の1つは、伏見の日本酒の起源を説明する小さな博物館に改築され、創業以来の会社の発展を示すポスターが展示されている。最初の部屋の小さなジオラマには、米を最初に洗うことから、完成した日本酒をかすから分離する圧搾まで、古代の醸造技術が展示されている。

部屋の片隅には、伏水と呼ばれる天然の泉から直接引き出される蛇口がある。黄桜で作られるビールと日本酒はすべてこの湧水で作られている。伝統的に、伏見の湧水は一般に開放されている。

隣の部屋には、古い木製の酒槽搾り（酒舟）が展示されている。ガラスパネルの反対側には、21世紀の同じ機械に相当するものがあり、何分の一かの時間で何度も作業を行うことができる。